漢字は三歳児の 95%が覚える

今、全国で、二百余の幼稚園や保育園が、私の提唱する漢字教育を実施しています。幼児教育の世界では、従来「小学校に就学する以前の幼児には、文字は教えない方がよい」という考え方が強く支配していて、「まだかな文字さえ満足に読めない幼児に、漢字を教えるとは乱暴もはなはだしい」と言って非難する人が少なくありません。

確かに、今まで多くの人々が考えていたように、漢字がかなよりもひどくむずかしい文字であるならば、その非難は正しいと言うことができます。しかし、幼児たちにとっては、漢字はかなよりもずっと親しみやすく覚えやすい文字だということが、私の実験によって証明されたのです。

かなは、五歳児で、70％程度の幼児が覚えられるだけですが、漢字なら、三歳児でも 95％もの幼児が学習できて、これを覚えることができるのです。

しかも、三歳から六歳までの四年間が、漢字に対して最も敏感に反応する時期であり、この時期ほど漢字をよく覚える時期は一生のうちでも他にないことが確かめられています。

実験してみますと、この時期の幼児は、全く努力なしに漢字を覚えることができます。ですから、幼児に漢字を覚えさせることは、幼児にとって、少しも負担にならないばかりか、この上ない楽しみでさえあるのです。

今まで、「漢字の学習はむずかしい」と言われてきましたが、そのわけは、漢字を学習させる時期が誤っていたからです。幼児期に学習させたなら、やすやすと覚えられるのに、覚える能力が衰えかかってから学習させているのですから、苦労ばかり多くて、効果はさっぱりあがらなかったのです。

鉄は熱いうちに打たなければなりません。赤熱の鉄は、どうにでも思いのままにすることができますが、冷えてからでは、二倍三倍の力をこめて打ってもどうにもなりません。漢字の学習では、幼児期は、正に鉄の赤熱の時期に当たっているのです。

その意味では、明治以来、百年の教育がまちがっていたのであって、私たち親の世代も、やはり不当な苦労をさせられた被害者の仲間だったのです。

教育漢字の不合理は？

昭和46年度から、小学校の教科書が全面的に改訂になります。小学校で学習する漢字も、今までの 881 字の教育漢字に、百十数字の当用漢字が追加されて、一千字近くになります。今までさえ悩まされていたのに、学習漢字がこんなにふえてはたまらないという声も聞かれます。

しかし「（内）閣、警（察）署、裁（判所）、郵（便）局、（県）庁、（牛）乳、卵、胸、腹、背、肩、泣（く）、笑（う）…」ーこのような日常生活に絶対欠くことのできない漢字が、教育漢字の中にないということで、六年生になっても学習させることができなかったとは、誠におかしなことではありませんか。

私は、十数年間、このことを指摘し、これらの漢字を小学校で学習すべきことを主張して来ましたが、やっと認められ、来年からこれらの漢字を六年生が学習できるようになったわけです。

でもほんとは、これらの漢字を六年生で学習させるのではやっぱり遅すぎるのであって、“読み書きを分離”して、書く学習は六年生まで延ばしてもよろしいが、教科書にはそれらの言葉を使用する必要に応じて、一年生にでも二年生にでも提出しておいて、読む学習だけは、しておくべきだと思います。

二年間で一千字覚える教育を

幼稚園の漢字教育は、すでに二百余りの幼稚園で実施されていて、その成果は、皆すばらしいものがあります。

二年間で、一千字くらいの漢字を覚えてしまった幼児もいて、新聞でも書籍でも、ばりばり読んいる、という報告が、どの幼稚園からも届いています。恐らく、普通の幼児なら、小学校に入学するころには、小学生向きに書かれた本ならどんな本でも、すらすらと読めて、理解できるようになると思います。

この読書能力を、小学校の六年間に十分に活用するならば、子どもたちはどんなに成長することでしょう。皆さん、ちょっと想像してみただけでも、すばらしい能力が期待できるではありませんか。

知的には、今の中学生以上になることはまちがいありません。

また、漢字学習は、決して単なる知育ではありません。この学習によって、情緒も深められ、意志も磨かれている事実を見落してはなりません。